

コミュニティ・スクールの取組み状況報告について

1. 導入状況

令和3年度より順次導入し、令和8年4月に全校化を実現

	導入校
令和3年度	千登世橋中学校・池袋本町小学校
令和4年度	仰高小学校
令和5年度	池袋中学校・高南小学校
令和6年度	清和小学校・朋有小学校・さくら小学校
令和7年度	西巣鴨中学校・西池袋中学校・千川中学校・池袋第一小学校・富士見台小学校・千早小学校
令和8年度	駒込中学校・巣鴨北中学校・明豊中学校・駒込小学校・巣鴨小学校・西巣鴨小学校・豊成小学校・朝日小学校・池袋第三小学校・池袋小学校・南池袋小学校・目白小学校・長崎小学校・要小学校・椎名町小学校・高松小学校

2. 令和7年度の取組み

- コミュニティ・スクール導入前研修の実施
- 地域コーディネーター説明会の開催
- 豊島区コミュニティ・スクール推進ガイドラインの改定

3. 今年度の取組み

(1) 地域コーディネーターの配置

地域と学校の連絡調整や情報共有、活動の企画や運営、多様な地域人材を学校とつなぐなど、学校と地域の信頼関係を築きながら地域学校協働活動を推進する地域コーディネーターを、令和8年4月より区立小・中学校全校に配置（委嘱人数35名）

【活動成果】

○授業の質の向上

- ・田植えの実施 ・町探検場所の拡充 ・ビオトープの整備、活用
- ・畑の活用（さつまいも堀）・周年行事の充実

○授業支援・補助

- ・ミシン授業の見守り ・かけ算進捗度確認 ・スポーツテスト補助

○ボランティア調整

- ・下校見守りの充実 ・放課後学習支援の充実 ・通学路安全パトロール
- ・花壇整備等の充実

(2) 学校運営協議会全体会の開催

学校運営協議会を効果的に運営することを目的に、委員長と運営方針や協議会での議論内容等について共通認識を持つ機会の場合として全体会を開催する。

➤ 第1回(8/26)開催概要

○豊島区コミュニティ・スクール推進ガイドラインについて学校支援担当課より説明

- ・コミュニティ・スクールの概要
- ・学校運営協議会の役割について(学校運営協議会規則、教育課程の承認)
- ・地域学校協働活動の概要
- ・学校運営協議会で主に議論するテーマについて
(①安全・安心な学校づくり、②防災活動、③SDGs活動、④部活動支援)

○教育課程、学校評価について、指導主事より説明

- ・教育課程の概要や記載内容、承認する上でのポイントなど
- ・学校評価に関する概要、学校評価における学校運営協議会委員の役割など

○意見交換・アンケートの実施

➤ 今後の予定

第2回：令和9年2月22日(月)開催予定

(3) 地域コーディネーター情報連絡会の開催

地域コーディネーター同士の横のつながりを強化することを目的に、他校の取組み事例の紹介や他自治体の好事例等の紹介を行い、情報を共有する機会の場合として開催。

➤ 第1回、第2回(5/13、8/26)開催概要

- ・コミュニティ・スクールガイドラインについて、教育課程、学校評価について教育委員会より説明
- ・地域コーディネーターから取組み事例を紹介、共有

➤ 今後の予定

第3回：令和8年12月9日(水)開催予定

第4回：令和9年2月22日(月)開催予定

参考資料

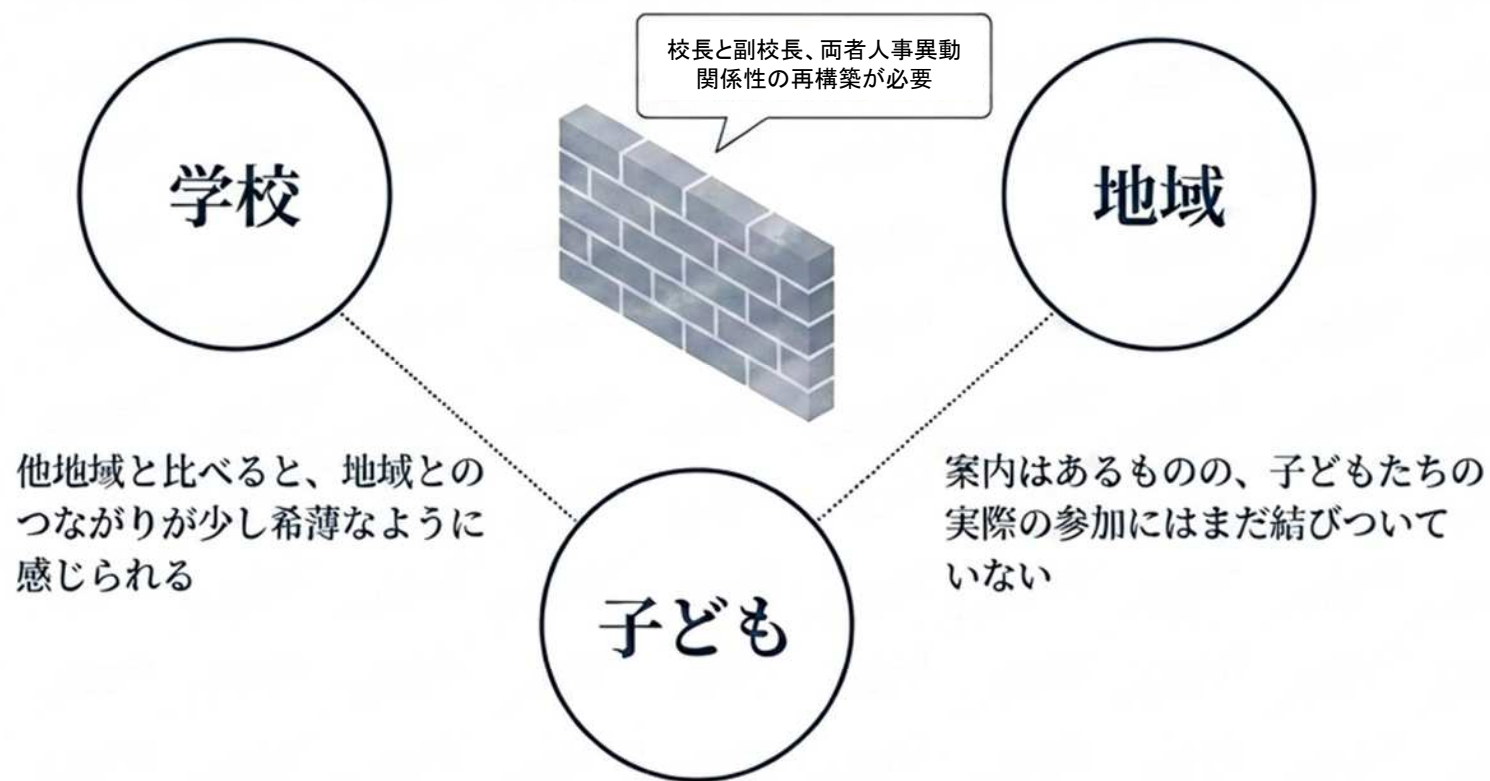
目白小学校と地域をつなぐ活動に向けて

ゼロからの関係づくりと、具体的なアプローチ

地域コーディネーター
笹谷 豊

令和8年8月26日 地域コーディネーター情報連絡会

はじめに：目白小学校の現在地



とにかくまずやったことは・・・



何から始めれば良いか、
迷っている状態

まずは「個別相談会」に
申し込んでみる



具体的な一歩を踏み出すための
ヒントが見つかる

一人で悩み続けるのではなく、外部の視点（個別相談）を取り入れることで、
状況が前進します。相談の目的は、今後の具体的な進め方を一緒に考えることです。

個別相談の結果



【人との対話】

校長・副校長先生と直接お話しする

学校の現在の考えや、お困りごと、地域と連携したいこと、授業補助のニーズなどをお伺いする。



【方針の理解】

教育課程や学校経営方針についての理解を深める

学校が目指す方向性の中で、地域が応援・協力できるポイントを共に見つけていく。

「対話」を通じた温かいつながりと、「方針」に基づいた納得感のある合意。
この両輪を大切に進めていく。

ステップ1：管理職の方々との対話から見た「現場の様子」

「学校側も色々と模索されているようです」

具体的な進め方について、学校側もまだ検討されている段階だということを、お互いに理解しました。

「お互いの顔が見えづらい」

まずは学校運営協議会委員のメンバーの方々の「顔」を知っていただくことから始める必要があります。



「先生方にも参加していただく」

管理職の方だけでなく、現場の先生方ご自身が地域連携について考える機会も大切です。

ステップ2：学校の思いを「分かりやすい言葉」にする



① 子どもたちが安心して
過ごせる学校づくり

② 地域と連携した
SDGsの学び

難しい方針を、地域みんなが「関わりやすいテーマ」へと、
分かりやすくつなぎ直すのがコーディネーターの仕事です。

具体的な取り組み：3つの方向性

見つけたテーマ（安全・SDGs）をもとに、みんなで進めるアクション。



① 子どもたちへ

テーマ：顔が見える関係をつくる

アクション：
プロフィールの
掲示



② 先生方へ

テーマ：協力し合える土台をつくる

アクション：
協議会への
参加と声の聞き取り



③ 地域の皆様へ

テーマ：安全・安心を目に見える形に

アクション：
防犯・見守り
腕章のお渡し

アクション①：児童へ向けた「顔の見える関係づくり」



● 施策内容

学校運営協議会委員のプロフィールと顔写真を校内に掲示。

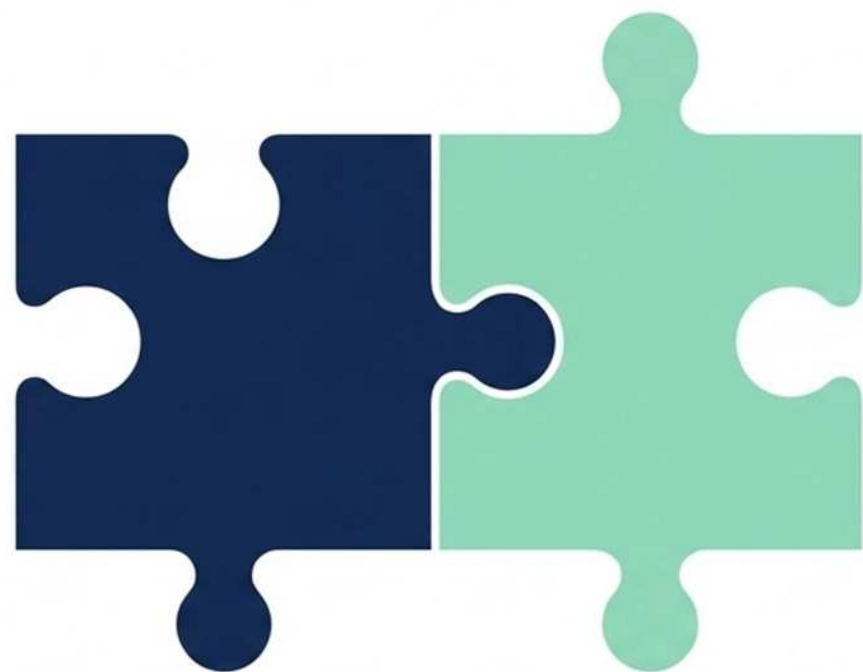
● 目的

児童に委員の「顔」を覚えてもらうこと。

● 重要性

「地域の人」という抽象的な存在から、「知っている〇〇さん」へ変わることで、心理的ハードルを下げ、安心感を生み出す。

アクション②：現場教員を巻き込む「連携の土壌づくり」



施策内容

2学期以降、管理職だけでなく「現場の教員」にも学校運営協議会に出席してもらう。

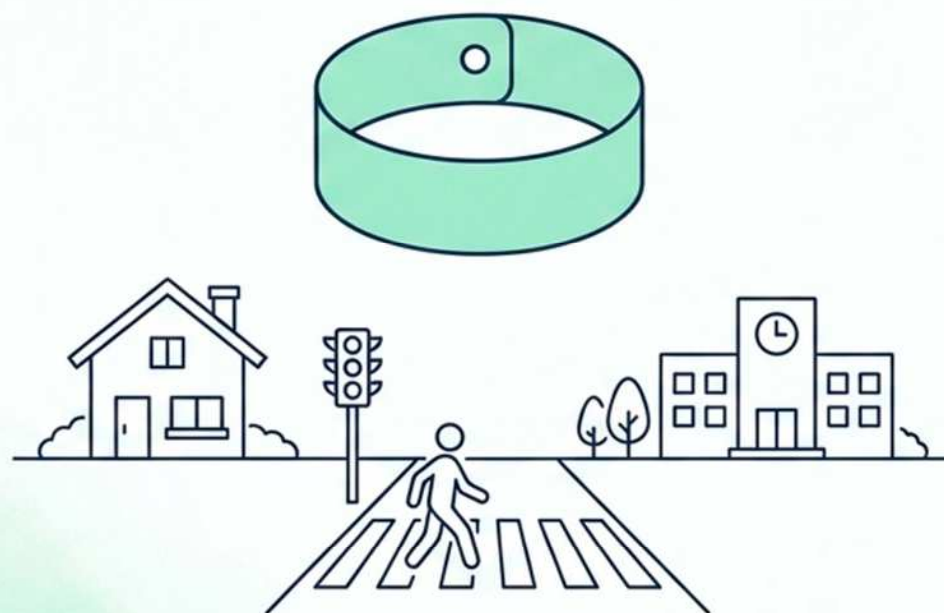
目的

教員からのリアルな要望等を直接収集する。

重要性

連携のアイデアを机上の空論にせず、授業や学校生活の最前線にいる教員の実際のニーズと結びつけるため。

アクション③：地域・社会へ向けた「安全・安心の可視化」



● 施策内容

地域の方々に防犯・見守り腕章を配布し、日常的な着用を案内。

● 目的

登下校中の「安全・安心」に向けた具体的な活動の促進。

● 重要性

学校の重要テーマである「安全・安心」を、地域住民が日常生活の中で無理なく体現できる仕組み作り。

ゼロからのスタートでも、
正しいプロセスを踏めば関係は必ず動き出す。
学校と地域が風通し良く手を取り合い、
子どもたちの豊かな学びと安全を支える
架け橋となるために。

ご清聴ありがとうございました。/ 本日の実践が、皆様の地域での一歩に繋がれば幸いです。